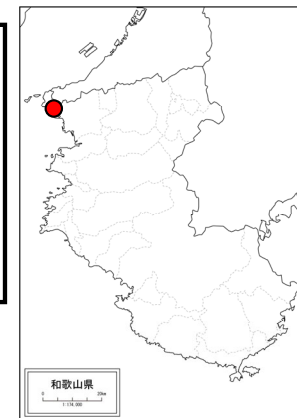


26.【陸域：直売所、食堂】低利用の駐車場への直売所、食堂の整備：和歌浦漁港（和歌山県和歌山市）

概要

- 和歌浦漁港では、平成24年に低利用施設を交流拠点施設に改修して地域活性化への取組が実施されている。一方、同施設に隣接する駐車場用地は利用減少により低利用地化していた。
- このため、長期利用財産である駐車場用地の一部を活用し、地域活性化等を図るため、和歌浦漁協がブルーツーリズム推進事業（県単事業）を活用して海産物販売・飲食施設を整備。
- 交流拠点施設との相乗効果による来訪者数の増加や、水産物消費拡大による水産振興等が期待される。



背景

- 和歌浦漁港では、未利用となっていた製氷冷凍冷蔵施設を改修した交流拠点施設が整備されており、地域活性化への取組が積極的に行われている。
- 平成8年度より漁港施設利用者の駐車場が不足したことから駐車場用地として、利用されてきたが、利用が減少した上に別途広大な駐車場が整備されたことから、当該用地は低利用の状態となっていた。

有効活用の内容

- 低利用の駐車場用地を活用し、海産物販売・飲食施設を整備。地元海産物を活用した販売等を実施。
- 令和2年2月より地元で生産した養殖マガキを活用した料理の提供等を開始した。
- 当該用地は製氷冷凍冷蔵施設を改修して整備した交流拠点施設に隣接しており、利用客増加の相乗効果も見込まれ、更なる賑わい創出が可能であると考えられる。

活用した漁港施設	漁港施設用地（駐車場用地）
実施時期	令和元年度
実施主体	和歌浦漁協
活用した事業	ブルーツーリズム推進事業（県単事業）
実施した手続き	財産処分（目的外使用）、占用許可

和歌浦漁港



効果

- 令和2年2月1日にオープンし、8日間の営業で2,544人の集客と1,450千円の売上があった。
- 現状は養殖マガキの販売が中心であるが、今後はマガキ以外の鮮魚等を使った料理も販売し、通年営業の実施を目指す。